

【宮古島市】 校務DX計画

「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の34項目において、本市は校務支援システムを早期に整備するなど概ね取り組みを実施しており、教育委員会業務のデジタル化を推進しているところである。

課題となっていたWEBフィルタリングや児童生徒の出欠連絡についても今年度対応を実施したところである。今後の課題としては、一部に押印・署名によって確認する書類が依然として残っていること、保護者への連絡手段の効率化、次世代の校務DX環境構築があげられる。

これらの課題を解決するために、以下のとおり取り組む。

1.教職員が提出する書類を、クラウドツールを活用しペーパーレス化、デジタル化すること

本市では、平成23年から校務支援システムを導入しており、教育委員会と学校における情報共有や連絡についてのペーパーレス化は進んでいる。

学校における職員会議資料や研修資料は印刷物を配布するケースが多かったところである。標準仕様のクラウドツールであるチャット等の活用を推進することによりペーパーレス化の促進や業務削減につなげる。

2.学校から保護者への通知等にクラウドサービス等を活用すること

本市では、学校からの保護者への一斉通知についてはメールを活用してきたところである。令和6年度より出欠連絡アプリを導入し、保護者がスマートフォン等で通知を読むことができ、印刷や配布等のコスト削減が期待できるところである。また、電話以外での出欠連絡手段を用意したことにより、教職員の業務負担軽減を図っているところである。

3.FAX・押印をやめクラウドツールを活用すること

本市教育委員会と学校間においては、FAXの過度な利用・不必要な押印は行わないよう努めているところである。クラウド環境を活用した校務DXを阻害するものと考えられるので令和6年8月9日付け文部科学省事務連絡「学校とのFAXでのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」に基づき校務DXを推進する。

4.次世代の校務DX環境を構築すること

次世代の校務DX環境構築に向け「ゼロトラストの考え方に基づき、アクセス制御を前提としたネットワークへの移行」が求められている。校務システムの更新タイミングにおいて、次世代の校務システムへと移行できるよう、校務ネットワーク・システム等の現状分析や、セキュリティの高度化、業務フローの見直し等、望ましい校務のあり方を検討する。